

ICT漁業の事例

うみのアメダス（海水温観測ネットワーク）

全国の沿岸を対象とした海水温観測ブイを開発



漁業者が抱える課題

地球温暖化に起因する海水温の上昇により、漁業では漁場形成が変化し、養殖業では斃死が発生し、定置網漁業では魚種が変化し、環境への順応に迫られていた。

海洋環境の可視化

- 海水温観測ブイの導入
- 多点多層観測の実施
- リアルタイム配信



ICT利活用の効果

- 海水温の状態が数値とグラフで可視化された
- 勘と経験の強化（補正と検証）が図られた
- 効率的、かつ、計画的な生産が可能となった

社会実装の方法

ブイメーカーによる製品化

うみのレントゲン（水産資源管理システム）

北海道のマナマコを対象とした資源評価手法を開発



漁業者が抱える課題

中国市場の開拓に成功した北海道産のマナマコは価格が急騰し、漁業者の漁獲意欲が向上したことから乱獲状態となり、資源量が減少、枯渇の危機に面していた。

水産資源の可視化

- iPadの導入
- 漁獲情報の共有
- 位置情報の共有



日時	船名	船種	漁獲量	備考
1 08:01	09:10	01:00	0.2	01:00(10分)
2 09:05	10:25	01:00	0.5	01:00(10分)
3 09:02	11:41	00:45	0.5	01:00(10分)
4 01:00	12:24	00:30	1.2	01:00(10分)
5 12:00	---	---	---	---
6 ---	---	---	---	---
7 ---	---	---	---	---
8 ---	---	---	---	---



ICT利活用の効果

- 資源の状態がマップとグラフで可視化された
- 漁業者主体の資源管理が実現した
- 効率的な技術継承（後継者育成）が可能となった

社会実装の方法

ITベンダによるサービス化